

焼岳の火山活動解説資料（平成 29 年 6 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2 - 、図 4）
北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね 50m 以下で経過しています。また、同局設置の焼岳南西斜面監視カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね 50m 以下で経過しています。その他の地域で噴気は認められません。
- ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）
火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図 2 - ~ 、図 4）
GNSS¹⁾連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況
(左図：6月6日 焼岳北監視カメラ、右図：6月29日 焼岳南西斜面監視カメラ)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 7 月分）は平成 29 年 8 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

【地震の計数基準の変遷】開始	2010年8月2日~2010年9月21日	中尾振幅0.5 μ m/s以上、S-P2秒以内
変更	2010年9月22日~2011年3月10日	中尾振幅0.5 μ m/s以上、S-P1秒以内
変更	2011年3月11日~2013年9月30日	中尾振幅3.0 μ m/s以上、S-P1秒以内
変更	2013年10月1日~	中尾振幅2.0 μ m/s以上、S-P1秒以内

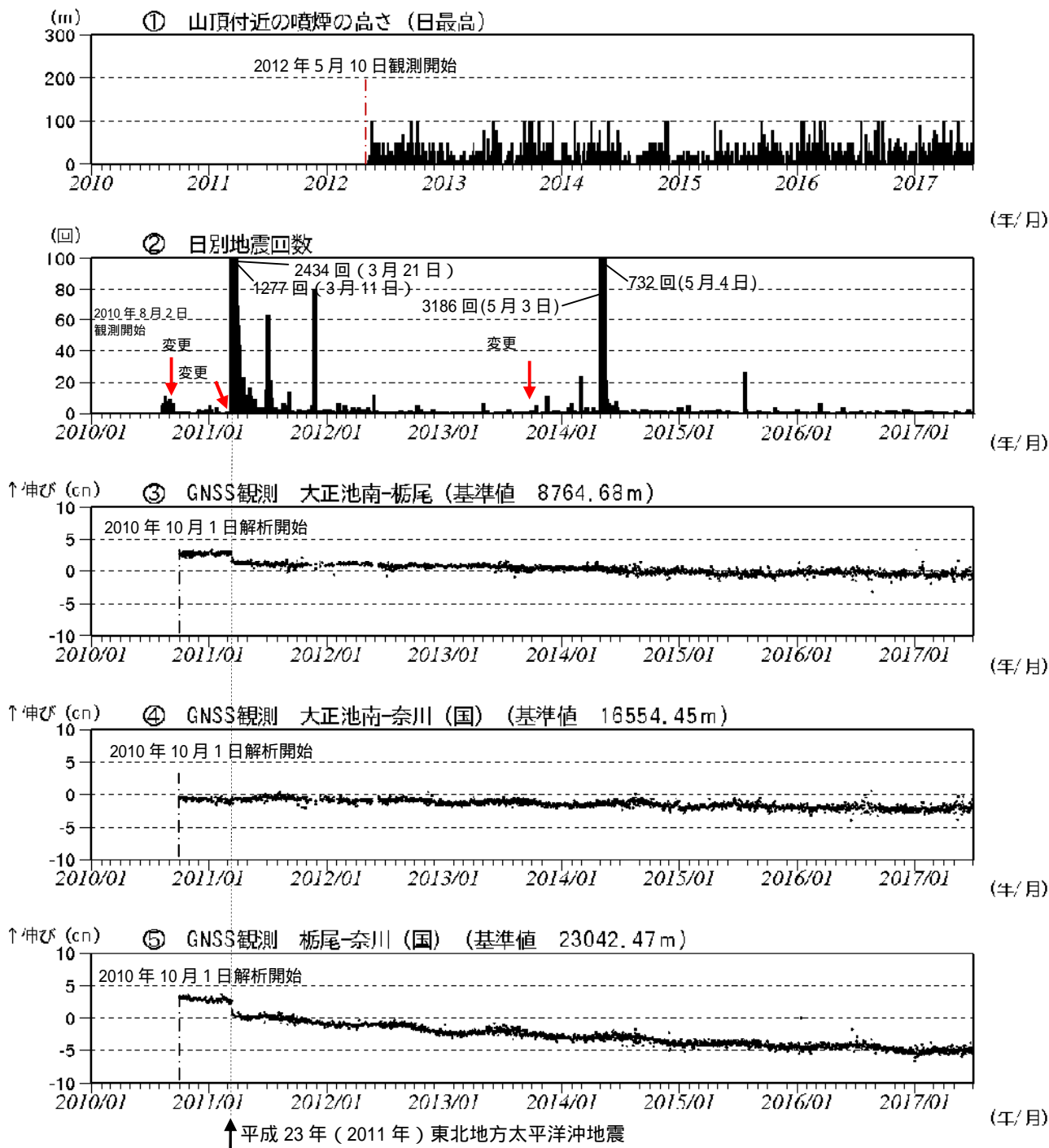


図2 焼岳 火山活動経過図(2010年8月2日~2017年6月30日)

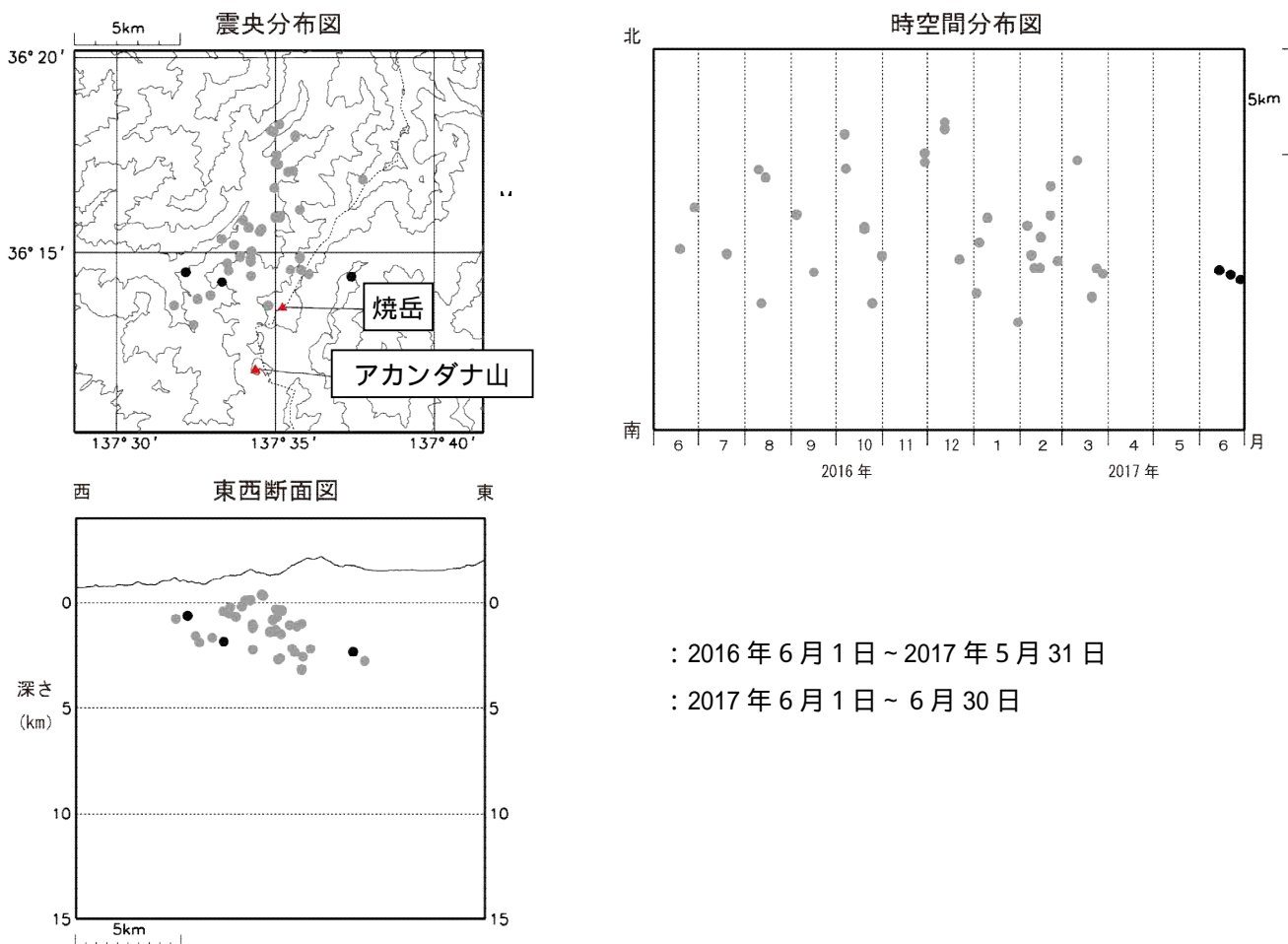
焼岳周辺の日別地震回数

2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。2014年5月3日から4日にかけてと2015年7月24日に一時的に活発化した後は低下しています。

~ GNSS連続観測による基線長変化(国): 国土地理院

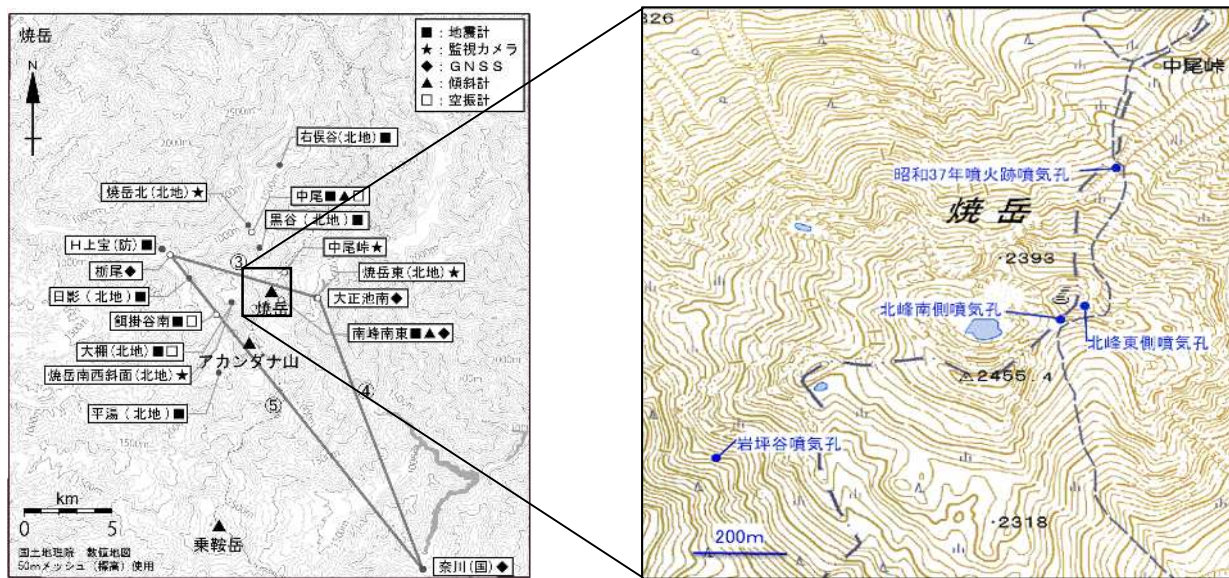
2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の影響により、ステップ状の変化がみられます。

~ は図4のGNSS基線 ~ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。



: 2016 年 6 月 1 日 ~ 2017 年 5 月 31 日
 : 2017 年 6 月 1 日 ~ 6 月 30 日

図3 焼岳 震源分布図(2016年6月1日~2017年6月30日)
 ・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(北地) : 北陸地方整備局

図4 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
 ・GNSS 基線 ~ は図2の ~ に対応しています。